

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	交通政策局広域交通・新幹線政策課	班・係	新幹線政策係
TEL(直通)	076-444-8902		

KPI番号	81							
KPI名	北陸新幹線金沢・敦賀間の開業							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
							R5年度末 までの開 業	
評価指標 動向の説明	<p>・令和3年3月31日に、国において「北陸新幹線(金沢・敦賀間)の工事実施計画の変更」が認可され、工事完了予定時期が平成34年度末(令和4年度末)から令和5年度末へと変更された。</p>							
目標達成 の見通し	達成可能							
目標達成 の見通しの 判断理由	<p>・令和2年12月16日に、与党整備新幹線建設推進プロジェクトチームが開催され、国土交通省「北陸新幹線の取扱いについて」で示された、令和5年度末の敦賀開業に向けて最大限努力すること、敦賀・大阪間について着工5条件の早期解決を図ること等の方針を了承された。</p> <p>・令和3年2月17日に、与党整備新幹線建設推進プロジェクトチーム「北陸新幹線敦賀・新大阪間整備委員会」が開催され、敦賀・大阪間の令和5年度当初着工に向け、課題に取り組むことが確認された。</p>							
目標達成に 向けた課題	<p>・収支採算性に優れた北陸新幹線の事業費として、金沢・敦賀間の建設財源を確保するとともに、敦賀・新大阪間の着工のため、新幹線への公共事業費の大幅な拡充・重点配分、貸付料財源の最大限の確保(前倒し活用や算定期間の延長等)、既設新幹線譲渡収入や鉄道・運輸機構の特例業務勘定の利益剰余金の活用、必要に応じ財政投融资の活用等により必要な財源を確保するよう、政府等関係機関に対して働きかけることが必要。</p>							
今後の 取組み	<p>・北陸新幹線建設促進同盟会の構成都市府県、経済界などと連携して、引き続き政府等関係機関に対し強力に働きかけていく。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	土木部都市計画課	班・係	新幹線・駅周辺整備班
TEL(直通)	444-3349		

KPI番号	82							
KPI名	富山駅周辺の歩行者通行量							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	36,246人	34,947人	34,950人	25,509人	38,663人	36,670人	38,000人	96.5%
評価指標動向の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸新幹線開業(H27.3)後は横ばい傾向であったが、令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響により前年度を下回った。 ・令和4年度は新型コロナウイルス感染症の流行収束に伴い、例年と同等の値となった。 							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も富山駅北口駅前広場の供用開始や複合テナントビルの開業効果が期待されることから、目標は「達成可能」と判断した。 							
目標達成に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・連続立体交差事業および区画整理事業が円滑に進捗するよう、引き続き、関係者と調整を図る必要がある。 							
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑に整備を進められるよう調整する。 							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	土木部道路課	班・係	計画係
TEL(直通)	076-444-3319		

KPI番号	83							
KPI名	改良済みの道路延長							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	2210.7km	2213.7km	2216.1km	2219.0km	公表時期 未定	公表時期 未定	2217.9km	—
評価指標動向の説明	・道路の改良済み延長は伸びており、目標を達成した。							
目標達成の見通し	既に達成							
目標達成の見通しの判断理由	・既に目標値に到達した。							
目標達成に向けた課題	・道路整備には、用地取得や工事实施等において地元住民の理解・協力が不可欠であることから、地元住民や関係者と十分調整を図り、事業を円滑に進めることが重要である。							
今後の取組み	・既に目標値を達成したが、令和6年度までに改良済みの道路延長が2224.5kmまで増加するよう、引き続き、地元住民や関係者との調整を図り、着実に令和4年度当初予算に盛り込んだ事業を推進していく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	土木部道路課	班・係	橋りょう係
TEL(直通)	076-444-3321		

KPI番号	84							
KPI名	耐震対策を実施した橋梁数(第1次緊急輸送道路)							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
		0橋	0橋	1橋	2橋	3橋	5橋	60.0%
評価指標動向の説明	平成29年度までに、耐震性能3(落橋・倒壊を防止するレベル)の耐震化が完了したことから、次の段階として、耐震性能2(速やかな機能回復が可能な性能を目指すレベル)の耐震化について、第1次緊急輸送道路上の橋梁の対策を推進する。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	想定以上に費用を要しているため、予算を確保し進捗を図ることが必要であることから、「要努力」と判断した。							
目標達成に向けた課題	想定以上に費用を要しているため、予算の確保に努め、着実に実施していく必要がある。							
今後の取組み	今後とも予算の確保に努め、着実に実施していく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	土木部港湾課	班・係	計画係
TEL(直通)	076-444-3336		

KPI番号	85							
KPI名	伏木富山港の外貿コンテナ取扱個数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	75, 138TEU	72, 611TEU	73, 467TEU	64, 790TEU	68, 547TEU	70, 731TEU	103, 600TEU	68. 3%
評価指標動向の説明	<p>・海外経済等の動向が不透明な中、港湾機能の強化や集荷促進のための取り組みを実施し、近年は横ばい傾向にあり、令和2年は新型コロナウイルス感染症等の影響もあり減少したが、令和3年に引き続き令和4年もわずかに回復した。</p>							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・令和2年は新型コロナウイルス感染症等の影響もあり外貿コンテナ取扱個数が減少し、昨年以降回復の兆しはあるものの、ロシアへの経済制裁による海外経済等の動向が不透明であり、近年の動向から推測した場合、目標達成の見通しが大変厳しいため、「要努力」と判断した。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ物流の回復や、隣県や中京圏などの太平洋側からの集荷促進を図る必要がある。</p>							
今後の取組み	<p>・港湾機能のさらなる強化に加え、ポートセールスの推進などにより、外貿コンテナ取扱個数の増加を目指す。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	交通政策局航空政策課	班・係	航空政策係
TEL(直通)	076-444-4510		

KPI番号	86							
KPI名	富山空港国内・国際路線(チャーター便含む)の利用者数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	563,672 人	573,120 人	545,233 人	67,136 人	100,050 人	251,509 人	引き上げる	—
評価指標動向の説明	<p>・平成27年3月の北陸新幹線開業の影響による富山ー羽田便の利用者数の減少も徐々に下げ止まりを見せていたが、新型コロナ感染拡大等の影響により、令和2年度から旅客需要が急激に低下した。令和4年度においては、新型コロナの感染が落ち着いたことや全国旅行支援による旅行需要の回復もあり、国内線は利用者数が戻りつつあるものの、国際線は全線運休が続いている。</p>							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・国内線は新型コロナの感染拡大により一時的に利用者数が減少しているが、これまで首都圏エリア及び近隣県等の旅客需要の掘り起こしなどに取り組んできた結果、感染拡大前までは利用者数が伸びてきていたため、感染拡大が収束すれば、羽田経由の乗継利用など新たな旅客需要を創出し、達成可能と考える。国際線の定期便再開に向けては、臨時便・チャーター便が運航されるなどの動きはあるものの、今後も継続的な交渉が必要なことから、現段階においては「要努力」とした。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・国内線については、航空会社との包括連携協定(令和4年3月)に基づき、西日本及び札幌を重点対象としたプロモーションや羽田経由での乗継ぎ利用の促進、搭乗キャンペーンの実施など、旅客需要を確実に捉え、新たな旅客需要を創出する必要がある。</p> <p>国際線については、定期便が運休しており、運航再開に向けて引き続き交渉していくとともに、運航再開後は、旅客需要の早期回復に向けて、これまで以上にインバウンド・アウトバウンド双方向の利用促進に取り組むことが重要である。</p>							
今後の取組み	<p>・引き続き、令和5年度当初予算に盛り込んだ事業を着実に推進していくとともに、市町村、民間の関係団体に対して富山空港の利用促進を働きかけていく。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	知事政策局デジタル化推進室	班・係	デジタル戦略課IT推進担当
TEL(直通)	076-444-3116		

KPI番号	87							
KPI名	県内における5G基盤展開率							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	-	-	-	-	-	-	94.2% 以上	-
評価指標動向の説明	公表されていないため不明							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	総務省は、令和4年3月に「デジタル田園都市国家インフラ整備計画」を策定・公表し、5G基盤展開率のほか、5G人口カバー率について整備目標を掲げ、世界最高水準の5G環境の実現を目指すとしている。							
目標達成に向けた課題	県内における5Gエリアは、令和5年6月現在、県内市町村の一部に留まっている。							
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、国や携帯電話事業者に地域間の偏りのない、県内全域への5G基地局の整備を要望する。 ・5Gの活用を検討する県内事業者等に対し、5Gの動向及び活用事例等に関するセミナーを開催するなど、県内における5Gの普及啓発及び導入支援等を行い、5G利活用の幅広いニーズの発掘につなげる。 							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部地域産業支援課	班・係	商業活性化係
TEL(直通)	076-444-3253		

KPI番号	88							
KPI名	中心市街地の歩行者通行量							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	富山市 50,863人 高岡市 18,229人	富山市 47,181人 高岡市 17,517人	富山市 46,638人 高岡市 14,425人	富山市 34,005人 高岡市 10,149人	富山市 45,896人 高岡市 10,898人	富山市 55,441人 高岡市 12,217人	富山市 46,000人 高岡市 17,670人	富山市 120.5% 高岡市 69.1%
	<p>富山市: 令和4年度時点で目標値を上回っている。 高岡市: 昨年度との比較では増加したものの、中心市街地の百貨店閉店の影響等があり、目標値を下回っている。</p>							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・高岡市において、中心市街地での定期的なマーケットの実施等によって歩行者通行量は増加傾向にあるものの、百貨店閉店や新型コロナウイルス感染拡大といった大きな要因があり、目標値には届いておらず、中心市街地の活性化施策等を引き続き取り組む必要があり、目標を「要努力」と判断した。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・中心市街地活性化に向けた取組み等をさらに進めていく必要がある。</p>							
今後の取組み	<p>・中心市街地の魅力向上やにぎわい回復にむけた取組みや、市街地再開発事業等に係る経費の支援を引き続き実施する。 ・個人やグループが実施する、商店街等の活性化につながる創意工夫を凝らした試行的な取組みを支援する。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	商工労働部地域産業支援課	班・係	商業活性化係
TEL(直通)	076-444-3253		

KPI番号	89							
KPI名	県民一人当たりの小売業の年間商品販売額							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	—	—	1.09百万円	1.09百万円	—	R5. 10月 公表予定	1.10百万円	—
評価指標動向の説明	県民一人当たりの小売業の年間商品販売額はH27からR1にかけてほぼ横ばいとなっており、目標値に近い数値となっている。(H27:1.13百万円→R2:1.09百万円)							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	人口の減少に伴い、商品販売額も減少していく見通しが強いが、今後も魅力ある商店街づくりや事業者の経営革新への積極的な支援を行うことで、「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	北陸新幹線延伸による人の流れの変化や、消費者ニーズの変化に対応していく必要がある。							
今後の取組み	「がんばる商店街支援事業」による商店街等が行う賑わい創出事業への支援、電子商取引市場への参入支援や電子取引での販売力強化を目的としたセミナー等を実施することにより、年間商品販売額の増加を図っていく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	知事政策局デジタル化推進室	班・係	デジタル戦略課IT推進担当
TEL(直通)	076-444-3116		

KPI番号	90							
KPI名	TOYAMA Free Wi-Fiのアクセスポイント(AP)の数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	125	149	163	168	180	185	195	94.9%
評価指標動向の説明	平成27年度より、アクセスポイントの数については、毎年増加している。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	防災施設・観光施設についてTOYAMA Free Wi-Fiの整備が進んできていることや、今後もスマートフォンやタブレットが普及することにより、無線環境の整備が進んでいくため。							
目標達成に向けた課題	市町村におけるTOYAMA Free Wi-Fiの整備については、ニーズの高い場所についてはおおよそ設置済みであり、今後は新たなニーズや課題を把握する必要がある。							
今後の取組み	各市町村の、TOYAMA Free Wi-Fiの整備状況及び希望設置箇所の調査により、Wi-Fi設置のための課題を把握し、活用事例や必要な財源の周知・相談対応を行う。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	知事政策局デジタル化推進室	班・係	電子県庁推進担当
TEL(直通)	076-444-3533		

KPI番号	91							
KPI名	自治体クラウドを利用している市町村数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	7市町村	9市町村	10市町村	11市町村	11市町村	14市町村	13市町村	107.7%
評価指標動向の説明	<p>自治体クラウドは、近年様々な分野で活用が進んでいるクラウドコンピューティング技術を電子自治体の基盤構築にも活用して、地方公共団体の情報システムの集約と共同利用を進めることにより、情報システムに係る経費の削減や住民サービスの向上等を図るもの。</p> <p>平成27年度末時点での利用団体は入善町、朝日町、舟橋村、射水市、滑川市、上市町の6市町村だったが、令和4年度末までに黒部市、魚津市、立山町、小矢部市、高岡市、氷見市、砺波市、南砺市が加わり14市町村となっている。</p> <p>総務省が策定した自治体DX推進計画においても重点取組事項の1つとして、自治体の情報システムの標準化・共通化が取り上げられている。</p>							
目標達成の見通し	既に達成							
目標達成の見通しの判断理由	既に目標を達成しているため							
目標達成に向けた課題	国が進める自治体情報システムの標準化・共通化に向けた取り組みを令和7年度末までに進める必要がある。							
今後の取組み	現在の自治体クラウドの枠組みを活かし、県と市町村が一体となって、情報システムの標準化・共通化に向けた取り組みを進める。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	交通政策局交通戦略企画課	班・係	交通計画係
TEL(直通)	076-4443124		

KPI番号	92							
KPI名	地域交通計画を策定している市町村数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	9市町村	9市町村	9市町村	11市町村	11市町村	11市町村	15市町村	73.3%
評価指標動向の説明	<p>・各市町村では、地域公共交通活性化・再生法に基づき、地域交通ネットワークの維持・確保を図るため、地域公共交通計画の策定を進めており、計画を策定している市町村数は着実に増加している。</p>							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・今後は、人口減少や少子高齢化など、地域交通の環境が変化する中でまちづくりと連携した計画の推進が求められており、すでにいくつかの市町村において策定及び検討されているものの、目標の達成には、より一層の取組みの推進が必要である。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・各市町村単独での計画策定費用の負担や課題解決策の検討が課題である。</p>							
今後の取組み	<p>・県では、市町村等が地域交通計画を策定する場合に計画策定費を支援しているほか、14の市町において設置されている地域公共交通会議に参加し必要な助言を行っているところ。引き続き、市町村の計画策定に向けた取組みを推進してまいりたい。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	交通政策局広域交通・新幹線政策課	班・係	新幹線政策係
TEL(直通)	076-444-8902		

KPI番号	93							
KPI名	幹線鉄道の運行間隔(最大運行間隔の短縮)							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	1.5時間 から2時 間程度	1.5時間 から2時 間程度	1.5時間 から2時 間程度	1.5時間 から2時 間程度	1.5時間 から2時 間程度	1.5時間 から2時 間程度	概ね1時 間程度	-
評価指標動 向の説明	・各鉄道事業者においては、利用状況を踏まえ毎年ダイヤの見直しを行っているが、一部の路線では、依然として利用者の少ない時間帯における最大運行間隔が1.5時間を超えている状況である。							
目標達成の 見通し	要努力							
目標達成の 見通しの 判断理由	・ダイヤの編成については、利用状況などを踏まえ、各鉄道事業者が決定するものである。一部の鉄道事業者においては、利便性・快適性の向上の観点から朝夕の通勤、通学時間帯の増便やパターンダイヤの導入などに取り組む動きが見られており、今後、更なる利便性の向上が必要である。							
目標達成に 向けた課題	・老朽施設改修や利用者の減少などによる各交通事業者の経営状況の悪化が課題である。							
今後の 取組み	・老朽化施設の改修や利便性向上に向けた各種取組みを支援することにより、鉄道の利用促進が図られるよう、市町村等と連携して努める。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	交通政策局 広域交通・新幹線政策課	班・係	広域交通対策班
TEL(直通)	076-444-8925		

KPI番号	94							
KPI名	全国相互利用可能な交通系ICカードの鉄軌道・バス数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	1路線	2路線	2路線	2路線	3路線	3路線	できる限り増やす	—
評価指標動向の説明	・あいの風とやま鉄道全駅、JR城端線の新高岡駅及び富山地方鉄道市内軌道線において全国相互利用可能な交通系ICカードを導入している。その他、富山地方鉄道の鉄道線及び路線バス(高速バス等一部路線を除く)で自社独自のICカードが導入されている。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	・万葉線では令和6年度からの全国相互利用可能な交通系ICカード導入に向けて準備を進めており、目標は「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	JR在来線(城端線・氷見線・高山本線)は富山駅、高岡駅、新高岡駅を除き未対応である。							
今後の取組み	・全国相互利用可能な交通系ICカードの導入は乗客の利便性・快適性向上につながるため、今後も沿線市町村と連携してJRや国に働きかけるほか、城端線・氷見線については、国の新たな支援制度の活用も視野に検討を進める。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	交通政策局 交通戦略企画課	班・係	地域交通係
TEL(直通)	076-444-3123		

KPI番号	95							
KPI名	ノンステップバス導入率							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	61.20%	64.90%	74.90%	75.30%	75.00%	R5年度冬 頃公表予 定	80%	—
評価指標動 向の説明	・高齢者等の利用に配慮し、各交通事業者においてノンステップバスの導入が進められている							
目標達成の 見通し	達成可能							
目標達成の 見通しの 判断理由	・低床バスの導入を加速するため、新規車両の購入に対する支援に加え、平成28年度から、中古のノンステップバスの導入に対しても支援しており、導入率は年々上昇している。							
目標達成に 向けた課題	・新型コロナや燃料・物価高騰の影響によるバス事業者の経営状況の悪化が課題である。							
今後の 取組み	・引き続き、市町村や交通事業者等と連携協力しながら、持続可能な地域公共交通を目指し、事業者に対して補助金に関する情報提供を行うなど、ノンステップバスのさらなる導入促進に努める。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	生活環境文化部 スポーツ振興課	班・係	地域スポーツ係
TEL(直通)	076-444-3461		

KPI番号	96							
KPI名	スポーツ指導者数(日本スポーツ協会に登録している公認スポーツ指導者数)							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	2,680人	2,963人	2,987人	3,118人	3,214人	3,212人	3,000人	107.1%
評価指標動向の説明	(公財)富山県スポーツ協会と競技団体が、コーチ等の資質向上のために資格取得や更新を目的とした指導者講習会を毎年開催している。さらに、スポーツ少年団指導者に関わる資格制度の改定による新規取得者の増加により、令和2年度に評価指標を達成した。							
目標達成の見通し	既に達成							
目標達成の見通しの判断理由	スポーツの指導現場において有資格者が求められていることや、従来の指導員・コーチ等に加え、令和4年度から総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度の運用開始に伴う有資格者(公認アシスタントマネージャー、公認スポーツ指導者)の配置などにより、指導者数は目標数を達成した状態を維持している。							
目標達成に向けた課題	令和2年度に目標は達成したが、少子化によりスポーツ少年団の登録者数や指導者数は減少しているため、目標値は据え置き、動向を注視する必要がある。また、スポーツ少年団指導者資格制度の改定により、更新の手続き(研修や登録料)が義務づけられた。資格の移行期間が令和6年3月末までとなっており、周知を図り、資格保持者数の維持に努める必要がある。							
今後の取組み	中学校部活動の地域移行等に伴い指導者の需要が高まっていることから、目標数を維持しつつ、更なる資格保持者数の増加及び資質向上のため、今後予定されている指導者登録システムの改修を契機として、新規(更新)登録者を対象とした公認スポーツ指導者資格取得の周知・啓発に取り組む。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	厚生部健康対策室健康課	班・係	がん対策推進班
TEL(直通)	076-444-3224		

KPI番号	97							
KPI名	市町村がん検診受診率							
進捗状況	(基準) H29	H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	21.1～ 32.6%	20.1～ 33.4%	18.9～ 32.2%	12.1～ 25.8%	13.9～ 28.0%	R6.3 公表予定	50%	-
評価指標動 向の説明	市町村がん検診受診率は近年横ばいだったが、R2年度にコロナ禍における受診控えのため低下している。R3年度には、一部のがん種で改善も見られたが、目標の50%に達していない。							
目標達成の 見通し	要努力							
目標達成の 見通しの 判断理由	受診率が最も高い肺がん検診でも、目標50%まで約22ポイント必要な状況であるため、「要努力」と判断したものの。							
目標達成に 向けた課題	がん検診受診率については、目標の50%に達していないため、関係機関と連携し、職域や家庭等も含めた幅広い普及啓発や受診しやすい環境づくりに取り組む必要がある。							
今後の 取組み	関係機関と連携し、職域や家庭等も含めた幅広い普及啓発を今後も積極的に取り組むとともに、引き続き市町村には、効果的な受診勧奨や受診しやすい検診体制の整備のための必要な支援を行う。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	厚生部健康対策室健康課	班・係	精神保健福祉担当
TEL(直通)	076-444-3223		

KPI番号	98							
KPI名	自殺死亡率(人口10万人あたりの自殺者数)							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	17.9人	15.5人	15.8人	19.0人	18.3人	19.8人	14.4以下 (R8)	—
評価指標動向の説明	<p>本県の自殺死亡率(人口10万人あたりの自殺者数)はH15年の32.1をピークに減少傾向が続いていたが、R2年はコロナ禍が長期化する中、原因や動機を特定できない自殺者が増加した。R3年は前年度比0.7人改善したものの、令和4年は再び増加となった。目標としている2026年度の自殺死亡率に対してはまだ高い水準で推移しており、引き続き、普及啓発、相談体制の整備・充実、うつ病等の高リスク者対策などの各種施策に取り組んでいく必要がある。</p>							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	自殺死亡率は年による変動がありつつ、全国・本県ともにH15年をピークに減少傾向が続いてきたが、コロナ禍以降は下がらない状況が続いている。今後も状況を分析する必要があるが、現時点では目標の達成には一層の努力を要するため。							
目標達成に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の状況に応じた自殺対策が推進される必要がある。 ・年齢層(若者、働く世代、高齢者)に応じた自殺対策の推進が必要である。 							
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、若年層を対象に、精神障害についての正しい知識の普及啓発を図る。 ・インターネット検索エンジン(google)の検索連動広告を活用して、自殺関連ワードを検索した人を適切な相談窓口につなぐことで、若者の自殺対策を推進する。 ・自殺者の増加に対応するため、昨年度に引き続き電話相談窓口「富山県こころの電話」の対応時間を24時間、365日に拡充して相談を受け付ける。 							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	厚生部健康対策室健康課	班・係	健康増進・歯科保健係
TEL(直通)	076-444-3238		

KPI番号	99							
KPI名	80歳(75~84歳)で20本以上の自分の歯を有する者の増加							
進捗状況	(基準) H29	H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	44.9%	-	-	-	46.6%	-	50.0%	-
評価指標動向の説明	80歳の20本以上の自分の歯を有する者は増加(改善)しているが、R3年度時点で46.6%であり、全国の51.6%(R4)より低い状況である。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	指標の達成には、乳幼児期・学齢期・成人期からの長期的な取組みが必要であり、「要努力」とした。							
目標達成に向けた課題	歯を失う主な原因はむし歯や歯周病等の歯科疾患であるため、ライフステージの特性に合わせた歯科疾患の予防や重症化予防が必要。							
今後の取組み	県民に歯科疾患の成り立ち及び予防方法や口腔機能の維持・向上・回復を図ることの必要性について普及啓発を行うとともに、ライフステージごとの特性を踏まえた総合的な対策に取り組む。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	厚生部 医務課	班・係	医療政策班
TEL(直通)	076-444-3219		

KPI番号	100							
KPI名	地域における医療機関相互間のネットワーク化							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	一部医療 圏間で整 備	医療圏別 に整備	医療圏別 に整備	医療圏別 に整備	医療圏別 に整備	医療圏別 に整備	全県的に 整備	—
評価指標動 向の説明	・医療機関間で、診療上必要な医療情報を電子的に共有・閲覧できるネットワークについて、本県では二次医療圏ごとに運用されている。							
目標達成の 見通し	達成可能							
目標達成の 見通しの 判断理由	・国において、医療機関間における情報共有を可能にするための電子カルテ情報等の標準化を進めており、システムが稼働すれば、既に整備されているネットワークと合わせて活用することで、従来の医療圏内での利用に加え、医療圏を越えた情報連携も可能となることから達成可能とした。							
目標達成に 向けた課題	・国において構築が進められている仕組みに関しては、現在もまだ詳細について検討中である。 ・また、既存のネットワークの機能向上等を行うにあたっては、国の仕組みと機能上、重複しないよう配慮が必要である。							
今後の 取組み	・国の検討の動向も踏まえつつ、ネットワークの運営事業者の要望があれば、ネットワークの機能向上等に対し支援していく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	厚生部 医務課	班・係	医師・看護職員確保対策班
TEL(直通)	076-444-3218		

KPI番号	101							
KPI名	人口10万人当たり医師数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	256.6人 (H28)	267.4人		273.7		2024.3 公表予定	270人 (R5)	101.4%
評価指標動向の説明	本県の医師数(総数)は増加傾向にある。人口10万人当たりでは、全国平均の269.2人を上回っている。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	修学資金貸与者数が順調に伸びており達成可能と判断した。							
目標達成に向けた課題	人口10万人当たりの医師数は増加傾向にあるが、医師の働き方改革への対応や退職、死亡による自然減への対応、地域・診療科間の偏在対策に取り組む必要がある。							
今後の取組み	引き続き、地域に必要な医療確保のため、修学資金の貸与や初期臨床研修医の確保など、総合的な医師確保対策に取り組んでいく必要がある。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	厚生部 医務課	班・係	保健看護係
TEL(直通)	076-444-3220		

KPI番号	102							
KPI名	認定看護師数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	251人	277人	291人	313人	324人	331人	425人	77.9%
評価指標動向の説明	・本県の認定看護師数は増加しており、人口10万対32.6と全国平均の18.6を上回っている(全国順位1位)。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	・順調に増加しているものの、中小規模の病院からの受講が伸びないことや既に認定看護師がいる病院において認定看護師が増えにくい現状から、認定看護師教育課程の受講を補助し推進していく必要があり「要努力」とした。							
目標達成に向けた課題	・地域医療介護総合確保基金事業補助金(看護職員育成研修支援事業)を活用し、認定看護師教育課程の受講を推進していく必要がある。							
今後の取組み	・看護職員の資質向上、職場定着を目指し、認定看護師の増加を図る。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	厚生部・厚生企画課	班・係	地域共生福祉係
TEL(直通)	076-444-3197		

KPI番号	103							
KPI名	介護サービスにおける介護職員数							
進捗状況	(基準) H29	H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	(17,397人)	17,858人	19,060人	19,349人	19,551人	2024.3公表予定	20,800人	-
評価指標動向の説明	国実施の調査を基にした推計値であるが、毎年増加している。 ※()内数値は推計方法変更前のもの(H30数値から変更)							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	福祉人材確保対策会議で検討された各種の施策を着実に実施してきており、介護需要の増加に伴い、職員数も増加している状況にはあるが、中高年齢層や子育てを終えた未就業の女性等の人材の掘り起こしや、イメージアップ戦略等をこれまで以上に加速化し、更なる就業促進に向けて努力していく必要があるため。							
目標達成に向けた課題	福祉・介護職は、他の職種と比べて有効求人倍率が高い一方、介護福祉士養成校への入学者数は減少しており、福祉・介護現場の人手不足と若者の福祉離れの傾向が依然として続いている。 若者向け介護職のイメージアップ促進策などを中心として、引き続き人材確保・定着を図る事業の実施に努め、より効果的に福祉人材確保対策に取り組む必要がある。							
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・質の高い福祉サービスを提供するために必要な人数を今後どのように確保していくか、福祉人材確保対策会議で検討する。 ・中高生向けPR事業の実施や、介護福祉養成校の魅力向上を支援するほか、介護職を目指す方に修学資金や就職準備金の貸付を実施し、福祉職を目指す若者の増加、地域・他業種からの多様な人材の参入を図ることとしている。 ・令和5年度には新たに、4月開設の「とやま介護テクノロジー普及・推進センター」を活用した介護ロボット・ICTの普及促進や、外国人材受入のための環境整備を行う事業所などへの支援を実施する。 							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	厚生部・厚生企画課	班・係	地域共生福祉係
TEL(直通)	076-444-3197		

KPI番号	104							
KPI名	富山型デイサービス施設設置件数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	128箇所	130箇所	132箇所	132箇所	128箇所	119箇所	180箇所	66.1%
評価指標動向の説明	平成14年度の「富山型デイサービス起業家育成講座」開講以来、設置が進んできたが、令和3年度に続き減少した。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	高齢者のデイサービス等から富山型への転換を促進するなど増加を推進しているが、令和3年度から設置数が減少しており、「富山型デイサービス起業家育成講座」の周知先を拡大するなど新規開設による設置にもこれまで以上に積極的に取り組む必要がある。							
目標達成に向けた課題	設置数が減少していることから、富山型デイサービスの一層の普及と定着が図られるよう、自治体や事業者、利用者等に対する周知啓発を図る必要がある。							
今後の取組み	引き続き富山型デイサービス起業家育成講座や職員研修を開催し、富山型デイサービスの普及や質の向上に務める。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	厚生部・厚生企画課	班・係	地域共生福祉係
TEL(直通)	076-444-3197		

KPI番号	105							
KPI名	ケアネット活動の取組み地区数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	262地区	265地区	266地区	266地区	265地区	266地区	306地区	86.9%
評価指標動向の説明	平成24年度に県の補助制度を拡充し、中核市も参加するようになったことから増加していたが、近年は横ばいが続いている。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	県の補助制度の拡充により、中核市での取組みが進んできたが、近年の取組み地区数は横ばいとなっており、県社協を通じて市町村社協、地区社協へとケアネット活動の普及についてより一層働きかける必要がある。							
目標達成に向けた課題	市町村社協や地区社協によってケアネット活動に対する理解や取組みに差があることから、市町村社協担当職員研修会の開催やアドバイザーの派遣などにより職員の資質向上やノウハウの蓄積を図っていく必要がある。							
今後の取組み	引き続き、地域運営組織の活動支援等として、助成金による支援を継続するとともに、全ての地区においてケアネット活動が実施されるために働きかける。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	厚生部高齢福祉課	班・係	地域包括ケア推進班
TEL(直通)	076-444-3205		

KPI番号	106							
KPI名	地域包括ケア活動の実践団体登録数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	2,016団体	2,219団体	2,252団体	2,285団体	2,354団体	2,367団体	2,400団体	98.6%
評価指標動向の説明	地域包括ケアシステムの構築を促進するために、高齢者の日常生活を支援するボランティア団体や社会貢献活動の一環として高齢者への支援を行う事業者などの登録を平成27年10月から開始しており、その登録数は順調に増加している。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	登録団体数の伸びから目標は「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	本制度の認知度不足。							
今後の取組み	引き続き、同制度の周知に努め、登録団体数の増加を図り、地域包括ケアシステムの構築の促進を目指す。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	厚生部高齢福祉課	班・係	地域包括ケア推進班
TEL(直通)	076-444-3205		

KPI番号	107							
KPI名	訪問看護ステーションに従事する看護職員数(人口10万人当たり)							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	34.4人	35.45人	38.55人	43.55人	47.26人	53.81人	45人	119.6%
評価指標動向の説明	・本県の訪問看護ステーションに従事する訪問看護職員数(人口10万人あたり)は、着実に増加している。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	・着実に増加していることから、目標は達成可能であると判断した。							
目標達成に向けた課題	・高齢化により増大する在宅の医療需要に対応するため、訪問看護ステーションの新規開設、規模拡大、業務改善等の支援や、訪問看護職員の確保・定着などをより一層強化する必要がある。							
今後の取組み	・引き続き、令和5年度当初予算に盛り込んだ事業を着実に推進していくとともに、関係機関と連携を図っていく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	厚生部高齢福祉課	班・係	施設・居宅サービス係
TEL(直通)	076-444-3414		

KPI番号	108							
KPI名	特別養護老人ホーム待機者数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	1,821人	1,798人	1,898人	1,950人	1,941人	1,858人	ゼロを目指して減少させる	-
評価指標動向の説明	高齢者の増加に伴い、要介護高齢者も増加する中、施設への入所希望が依然として多いことから、平成27年度から地域密着型特別養護老人ホームを358床を整備するとともに、認知症高齢者グループホームや小規模多機能型居宅介護などの介護サービス基盤を整備したところ、減少傾向が見られたが、R元年以降は微増している。R3年以降はやや減少傾向にある。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	令和3年以降概ね減少傾向であるが、待機者総数に関してはやや横ばい傾向であるため「要努力」とした。							
目標達成に向けた課題	介護サービス基盤の整備については、介護保険事業支援計画に基づき着実に整備を進めてきているところであるが、特養の待機者の減少に向けて、今後も計画的に進めていく必要がある。							
今後の取組み	介護予防の推進により、要介護者の増加を極力抑えるとともに、身近な地域での介護サービスの普及など、施設と在宅のバランスのとれた介護基盤の整備等により、待機者数ゼロを目指して減少させる。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	厚生部高齢福祉課	班・係	施設・居宅サービス係
TEL(直通)	076-444-3414		

KPI番号	109							
KPI名	認知症高齢者グループホームの床数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	2,564床	2,582床	2,639床	2,666床	2,680床	2,725床	2,792床 (R5)	97.6%
評価指標動向の説明	富山県介護保険事業支援計画に基づき、認知症高齢者グループホームの床数は着実に増加している。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	R5時点の整備目標の2,792床に対して未達であるが、着実に整備が進んでいるため、「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	整備をより一層進めるため、補助制度の活用や介護人材確保の支援などを推進する必要がある。							
今後の取組み	市町村と連携し、県の間接補助制度の積極的な活用を推進することで、富山県介護保険事業支援計画に沿った、認知症高齢者グループホームの整備をより一層進めていく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	厚生部高齢福祉課	班・係	地域包括ケア推進班
TEL(直通)	076-444-3205		

KPI番号	110							
KPI名	認知症サポーター養成講座修了者数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	108,634 人	120,939 人	133,056 人	137,466 人	142,392 人	148,668 人	15万人	99.1%
評価指標動向の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の認知症サポーター養成講座終了者数は順調に増加している。 ・総人口に占める認知症サポーター割合は14.3%であり、全国平均(10.8%)を上回っている。 							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<ul style="list-style-type: none"> ・H29年からR4年まで、1年あたり平均9,051人ずつ認知症サポーターを養成しており、今後も同じペースで要請した場合15万人に達成することから「達成可能」であると判断した。 							
目標達成に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、認知症サポーター養成研修の受講者は介護従事者や行政職員の割合が大きいいため、当事者に身近な企業等にも働きかけていく必要がある。 							
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・企業向けに研修や普及啓発を行うことで、認知症サポーターのさらなる養成を目指す。 							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	厚生部障害福祉課	班・係	管理係
TEL(直通)	3473		

KPI番号	111							
KPI名	障害者グループホーム利用者数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	806人	849人	870人	931人	974人	1,008人	1,015人	99.3%
評価指標動向の説明	共同生活援助のサービス利用者については、施設入所支援の利用者の減少に伴い増加していく見込みである。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	県及び市町村において、障害者やサービス事業所のニーズ等を踏まえて数値目標を設定しており、利用者数の伸びから目標は「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	障害のある人の地域生活を支援するため、引き続き、国、市町村、関係団体等と連携し、サービスの質の確保・向上に向けた取組を進めていく必要がある。							
今後の取組み	障害のある人が住み慣れた地域で自立し、安心して日常生活や社会生活を送ることができるよう、障害福祉サービスの充実やグループホームの整備を着実に推進する。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	厚生部障害福祉課	班・係	管理係
TEL(直通)	3473		

KPI番号	112							
KPI名	日中活動を支援する事業所利用者数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	5,927人	6,054人	6,286人	6,467人	6,515人	6,670人	7,139人	93.4%
評価指標動向の説明	日中活動系サービスについては、障害者支援施設等から地域生活へ移行する障害者や、特別支援学校高等部卒業生など、日中活動の場として新たにサービスを利用する者が増加することから、利用者数や利用量は増加する見込みである。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	県及び市町村において、障害者やサービス事業所のニーズ等を踏まえて数値目標を設定しており、利用者数の伸びから目標は「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	障害のある人の地域生活を支援するため、引き続き、国、市町村、関係団体等と連携し、サービスの質の確保・向上に向けた取組を進めていく必要がある。							
今後の取組み	引き続き、国、市町村、関係団体等との連携を図っていく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	教育委員会 生涯学習・文化財室	班・係	青少年教育班
TEL(直通)	076-444-9647		

KPI番号	113							
KPI名	放課後子ども教室等を実施している小学校区の割合							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	99.5%	99.5%	99.5%	99.4%	99.4%	99.4%	100%	99.4%
評価指標動向の説明	<p>・県内全小学校区のうち、放課後子ども教室(文部科学省)、放課後児童クラブ(厚生労働省)、とやまっ子さんさん広場(県単事業)のいずれかを実施している小学校区の割合であり、ほぼ横ばい傾向にある。</p>							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・地域住民等の参画により、放課後子ども教室等を実施している小学校区の割合は、99.4%で、地域ぐるみで子どもを見守り育てる取組みは広まり、定着している。未実施の1小学校区は、放課後子ども教室等を実施しなくても安全な居場所が確保されている。地域人材の参画・協力を得て、子どもの放課後の安全・安心な活動場所が確保され、概ね学習活動や体験活動、交流活動等が推進されていることから、「達成可能」と判断した。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・今後、学校の統廃合により箇所数の減少が予想され、統廃合後の体制整備が求められる。0.6%の未実施校区(1校区)を含め、学習活動や体験活動、交流活動等が推進され、より有意義な放課後が過ごせるよう働きかけていく必要がある。</p>							
今後の取組み	<p>・「新・放課後子ども総合プラン」から、県は「推進委員会」を、市町村は「運営委員会」を設置し、教育委員会と福祉部局の連携を強化していく。 ・地域住民等の参画による子どもたちの成長を支える多様な活動を支援するとともに、地域学校協働活動の推進体制の整備や強化等が図られるよう働きかけていく。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	教育委員会 保健体育課	班・係	食育安全班
TEL(直通)	076-444-3444		

KPI番号	114							
KPI名	児童生徒の朝食の欠食割合							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	小学5年生 0.8% 中学2年生 1.9%	小学5年生 0.8% 中学2年生 2.1%	小学5年生 0.9% 中学2年生 2.2%	小学5年生 1.1% 中学2年生 2.3%	小学5年生 1.1% 中学2年生 2.3%	小学5年生 1.0% 中学2年生 2.6%	限りなく ゼロに近 づける	-
評価指標動 向の説明	・国の施策として第4次食育推進基本計画(R3.3策定)の目標にも引き続き「朝食を欠食する子供の割合 0%」と掲げられている。本県の児童生徒の欠食率は、近年は微増傾向にある。							
目標達成の 見通し	要努力							
目標達成の 見通しの 判断理由	・本県の児童生徒の欠食率は近年微増傾向にあり、食習慣は個々の家庭によるところが大きいため、引き続き指導・啓発等の努力が必要と判断した。							
目標達成に 向けた課題	・食習慣は個々の家庭によるところが大きいため、今後も、朝食摂取並びに、朝食内容の栄養バランスの向上を目指して家庭と連携し、取組を継続、充実させていく必要がある。							
今後の 取組み	・「毎日しっかり朝ごはん」運動を実施し、各校で活用できるような指導資料や啓発資料を作成し、児童生徒の指導や保護者への啓発を推進していく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	教育委員会 生涯学習・文化財室	班・係	家庭成人教育班
TEL(直通)	076-444-3435		

KPI番号	115							
KPI名	小・中学校の保護者の親学び講座参加率							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	44.3%	45.1%	52.9%	31.6%	28.6%	31.8%	50%	63.6%
評価指標動向の説明	<p>・令和元年度に向けて数値は増加傾向にあったが、令和2年度と3年度はコロナ禍の影響を受けて親学び講座自体を開催することができなかったり、規模を縮小して開催したりしたため、参加者率が下がっている。令和4年度は、コロナ禍での親学び講座を工夫して開催した結果、参加率は増加し始めている。</p>							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・令和2年度から4年度のコロナ禍において、工夫して実施された親学び講座の開催方法を、令和5年度以降に生かすことができる。県PTA連合会や市町村教委等との連携を深め、親学び講座のよさを広めたり、工夫して講座を開催したりするため、目標達成の見通しは「要努力」と判断した。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・PTA、市町村教委、学校等と連携・協力したり、親学び講座の情報を発信したりしながら積極的に親学び講座を推進していく必要がある。</p>							
今後の取組み	<p>・時代や保護者のニーズに合った親学び講座を開催できるよう、県PTA連合会や市町村教委等との連携を深めたり、デジタルを活用して親学び講座のよさを発信したりするなど、保護者が参加したいと思える魅力的な講座を開催できるよう、働きかけていく。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	教育委員会 生涯学習・文化財室	班・係	青少年教育班
TEL(直通)	076-444-9647		

KPI番号	116							
KPI名	18歳・19歳の投票率							
進捗状況	(基準) H29	H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	41.3% (H28)	選挙なし	28.0%	44.7%	37.1%	31.6%	増加させる	—
評価指標動向の説明	平成27年に選挙年齢が18歳以上に引き下げられたことを受けて、主権者教育に対する取組みが推進されたことにより、平成28年の参議院選挙における18・19歳の投票率は41.3%と高かった。令和2年度の県知事選挙では過去最高の44.7%だが、令和3年度以降は減少傾向である。平成29年度以降の投票率は年度や選挙内容によって差異があるものの、多くは30%以上を維持している。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	選挙年齢改正後、令和元年を除いて、投票率は30%以上を維持している。令和4年から成年年齢引き下げとなり、若者の政治への関心も高まってきているが、引き続き、学校における主権者教育や「高校生とやま県議会」事業等をとおして、高校生の政治や議会への興味・関心を高めることが必要であり、「要努力」と判断した。							
目標達成に向けた課題	高等教育機関への進学のため一時的に地元を離れる若者の数が影響しているとも考えられるが、高校で高められた政治参加意識が継続されなかった場合も考えられるため、持続的な社会参画意識の向上を図る必要がある。							
今後の取組み	今後も高校における主権者教育や出前講座、「高校生とやま県議会」事業の実施と参加者の高校での事後活動等をとおして、高校生の主体的な政治参加意識や社会参画意識の向上を図ることで、若者の投票率の向上を図っていく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	教育委員会 小中学校課	班・係	教育力向上班
TEL(直通)	076-444-4495		

KPI番号	117							
KPI名	地区別幼児教育・小学校教育接続研修会参加率							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	58.1%	54.7%	56.5%	58.8%	42.1%	48.80%	59.0%	82.7%
評価指標動向の説明	<p>・毎年、10月～11月頃を実施している地区別(新川・富山・高岡・砺波)幼児教育・小学校教育接続研修会に参加した幼稚園、保育園(所)、認定こども園、小学校の割合である。</p> <p>・令和3年度は、コロナ禍のため地区別参集型での開催ができず、オンラインで3講座からの選択制で参加を自由としたため、受講者が減った。R4は、例年どおりの開催方法に戻し、参加率が上がった。</p>							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	幼児期の教育や、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続についての重要性がさらに注目されていくことが予想される。各幼児教育施設等への本研修会の受講をさらに推進するなどして参加者の増加を目指していくことから、達成可能と判断した。							
目標達成に向けた課題	幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を推進していく意識は高まってきているものの、人手不足や多忙感が課題となっている。現場の実態やニーズに応じた内容、参加しやすさを工夫していく必要がある。							
今後の取組み	子どもの発達や学びの連続性を確保した指導の充実を目指し、主体的で深い学びの実現を図るための研修会となるよう、研修内容や研修方法の検討、改善を図り、魅力ある研修会としていく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	教育委員会 県立学校課	班・係	高校教育係
TEL(直通)	076-444-3450		

KPI番号	118							
KPI名	児童生徒のICT活用を指導する能力							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	71.9%	75.2%	77.0%	78.9%	81.2%	2023年 公表予定	85.0%	—
評価指標動向の説明	<p>・指標数値は、「学校における教育の情報化の実態等に関する調査(文部科学省)」にて、児童生徒のICT活用を指導することが「できる」もしくは「ややできる」と回答した教員の割合である。</p> <p>・H28年度以降上昇を続けており、本県における児童生徒のICT活用を指導する能力は着実に向上していると考えられる。また、いずれの年度においても、全国平均より上回っている。</p>							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・R3年度からは児童生徒1人1台のICT端末環境が整い、新たな学びのスタイルに対応した授業実践を行っているため、これまで指標は着実に上昇しており、引き続き指導力向上に努めることから、達成可能と判断した。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・児童生徒を指導する教員自身のICTを活用して指導する能力についても、併せて向上させる必要があると考える。</p>							
今後の取組み	<p>・教員向け研修会の実施や、デジタル教科書等のICTを効果的に活用した授業の実践事例の紹介等、今後もICT活用の推進に取り組んでいく。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	教育委員会 県立学校課	班・係	高校教育係
TEL(直通)	076-444-3450		

KPI番号	119							
KPI名	授業が分かると答える生徒の割合							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	59.0%	64.1%	64.1%	67.5%	71.7%	74.7%	増加させる	—
評価指標動向の説明	<p>・平成28年12月の中教審答申以降、多くの教員が思考力・判断力・表現力を育成する授業を意識し、主体的な学びにつながる活動や対話による協働的な活動を授業に組み入れるなどの授業改善に取り組んでいる。近年は数値は上昇傾向にあり、授業改善に向けた取組みが実を結んできているものと思われる。</p>							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・生徒の学習習慣の定着や分かる授業のための教師の授業改善、指導方法の研究が進められた結果であると考えられる。このため「達成可能」と判断した。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・一人一台端末の有効な活用などを通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることが必要である。</p>							
今後の取組み	<p>・今後も引き続き、教師一人ひとりがさらなる継続的な授業改善や指導方法の研究を進めることで、学力向上につながる質の高い教育の推進にしっかり取り組む。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	教育委員会 小中学校課	班・係	教育力向上班
TEL(直通)	076-444-3449		

KPI番号	120							
KPI名	全国学力・学習状況調査における正答率							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	小 +2P 中 +3P	全国トッ プクラス	小 +3P 中 +3P	全国学 力・学習 状況調査 が実施さ れず	小 +3P 中 +1P	小 +3P 中 +1P	全国との差 小 +3P以上 中 +3P以上 を維持 (R8)	—
評価指標動 向の説明	・全国学力・学習状況調査(小学6年生、中学3年生への悉皆調査実施)における正答率は、小学校国語、小学校算数、小学校理科、中学校国語、中学校数学、中学校理科の全教科で全国平均を1～5P上回る結果である。							
目標達成の 見通し	達成可能							
目標達成の 見通しの 判断理由	・各教育委員会や学校において、主体的な学力向上に向けた取組みが継続的に行われているため、達成可能と判断した。							
目標達成に 向けた課題	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を継続すること及び望ましい学習習慣や生活習慣の定着に向けた取組みを継続することが必要である。							
今後の 取組み	・今後も、市町村教育委員会と連携し、継続的に各小中学校の取組みを支援していく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	教育委員会 小中学校課	班・係	児童生徒育成係
TEL(直通)	076-444-3452		

KPI番号	121							
KPI名	いじめの解消率							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	<small>(小・中・高・特)</small> 80.5%	<small>(小・中・高・特)</small> 82.2%	<small>(小・中・高・特)</small> 81.5%	<small>(小・中・高・特)</small> 75.5%	<small>(小・中・高・特)</small> 74.5%	2023. 10 公表予定	限りなく 100%に 近づける	-
評価指標動向の説明	<p>文部科学省から「各学校においては、発生しているいじめを漏れなく認知した上で、その解消に向けて取り組むことが重要である。」との見解が示されており、本県においても、漏れなくいじめを認知し、その解消率を高めることを目標としたものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KPIは国公立の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の数値を示している。 ・なお、指標としている数値は、年度内(3月末まで)の解消率であり、認知の時期や事案の内容によっては、年度をまたいで継続対応となるものもある。 							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	<p>文部科学省においては、「いじめが解消している」状態とは、相当の期間(少なくとも3か月を目安とする)いじめの行為が止んでおり、被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないこととされている。1月以降にいじめを認知した場合、年度内で3か月以上いじめが止んだ状態にならないことが多く、100%の解消は困難である。また、全国の解消率(80.1%)より低いことから、要努力と判断した。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門的人材を活用するなど組織として丁寧に対応するとともに、いじめられた児童生徒の心のケア、被害者ニーズの確認、加害者と被害者の関係修復等、いじめ事案の迅速な対応に努める必要がある。</p>							
今後の取組み	<p>いじめ対応等に関する事業を確実に執行する中で、SNS等ネットによるいじめへの対応や、子供たちからのSOSの受け止め方等に対する教職員の資質向上を図ることや、各相談機関等との連携相談体制を整備することについて、国、市町村、関係機関との連携を図っていく。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	経営管理部学術振興課	班・係	私学振興係
TEL(直通)	076-444-9645		

KPI番号	122							
KPI名	私立高等学校への経常費補助金の補助単価水準(全国順位)							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	10位	7位	7位	8位	11位	10位	全国上位 (一桁) を維持	-
評価指標動向の説明	・国庫補助に加え、私立学校の特色ある教育に対して上乘せして補助を行っており、補助単価水準は全国上位を維持している。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	・外国語指導助手の配置経費に対して支援を行うなど、他県に先駆けた補助を行うことで全国上位となっているが、さらなる予算確保に努める必要がある。							
目標達成に向けた課題	・国や他県の動向を注視しつつ、必要な予算の確保に努める。							
今後の取組み	・引き続き、令和5年度当初予算に盛り込んだ事業を着実に推進するなど、私立高校の特色ある教育の支援に取り組む。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	教育委員会 小中学校課	班・係	教育力向上班
TEL(直通)	076-444-3449		

KPI番号	123							
KPI名	将来の夢や目標をもっている子どもの割合							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	小84.8% 中68.5%	小84.2% 中70.6%	小83.4% 中69.1%	(実施せず)	小78.6% 中66.2%	小79.0% 中65.0%	増加させる	—
評価指標動向の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・H30以降、減少傾向にある。 ・R4年度の指標は全国的にも減少している。 (小学校 R3:80.3% → R4:79.8%、中学校 R3:68.6% → R4:67.3%) 							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校でのふるさと教育やキャリア教育、ライフプラン教育の充実に向け継続的に取り組んでいるが、目標の達成には至らなかったため「要努力」とした。 							
目標達成に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが育つ社会環境の変化に加え、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等が、子供たち自らの将来のとらえ方にも大きな影響をもたらしていると考えられる。 							
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校でのふるさと教育やキャリア教育、ライフプラン教育の充実に向け継続的に取り組んでいく。ふるさと教育に関わる副読本やライフプラン教育用冊子をデジタル化しており、富山のよさに学び、授業等や家庭教育で将来の夢や目標について考えたり、語り合ったりする機会が増えるようにしていく。 							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	教育委員会 県立学校課	班・係	高校教育係
TEL(直通)	076-444-3450		

KPI番号	124							
KPI名	県立高校全日制3年生のインターンシップ体験率							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	74.5%	75.2%	82.9%	国の調査が中止のためデータなし	国の調査が中止のためデータなし	53.6%	80.0%	67.0%
評価指標動向の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の県立高校全日制のインターンシップ体験率は、上昇傾向にあり、いずれも全国平均(H30:35.8%、R1:40.3%)より上回っている。(R4の全国平均値は未公表。) ・職業系専門学科は体験率100%近くに達している(R元年度99.3%)。一方、R元年度の普通系学科の体験率は75.4%、総合学科は81.2%であるが、年々増加している。 ・R2・3年度は国の調査が中止のためデータなし。 ・R4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部中止となった事業所があったため、体験率が低くなっている。 							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により体験率が低くなった。しかし、今後はインターンシップの実施が可能になると見込まれ、R元年度の体験率が80%を超えたことや、「社会へ羽ばたく『17歳の挑戦』」を推進していることで、「達成可能」と判断した。 							
目標達成に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・職業系専門学科はほぼ100%の体験率を維持するとともに、普通系学科と総合学科の体験率の増加を図ることが必要である。 							
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会へ羽ばたく『17歳の挑戦』」を推進し、特に普通系学科と総合学科については、大学での実験・実習等を体験する「アカデミック・インターンシップ」や県内企業で実技体験等を行う「富山の企業魅力発見推進事業」を実施し、キャリア教育の充実を図る。 							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	教育委員会 県立学校課	班・係	高校教育係
TEL(直通)	076-444-3450		

KPI番号	125							
KPI名	新規高校卒業生の県内就職率							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	94.1%	95.3%	94.3%	95.0%	95.3%	2023.12 公開予定	現状以上	—
評価指標動向の説明	・近年における高校卒業生の県内就職率は90%以上で推移し、全国の平均値よりも非常に高く、常に全国トップレベルである。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	・県内企業の良さを理解することのできる、県内企業等の見学や就業体験ができる機会を充実・継続していることから「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	・県内外の求人数は年々変動すること、新型コロナウイルス感染症の影響及び国際情勢等に伴う景気や雇用情勢の変化など、見通すことの難しい要因がある。							
今後の取組み	・「富山型キャリア教育充実事業」の実施により、生徒が県内企業の良さを理解することのできる機会、県内企業等の見学や就業体験ができる機会を充実する。また、キャリア教育アドバイザーの配置による、生徒のニーズ把握や求人確保に向けた取り組みを一層充実する。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	教育委員会 県立学校課	班・係	高校教育係
TEL(直通)	076-444-3450		

KPI番号	126							
KPI名	新規高校卒業生の就職率							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	99.9%	99.7%	99.8%	99.9%	99.7%	100.0%	100.0%	100.0%
評価指標動向の説明	・近年における県内高校の新規卒業者の就職率については、経済状況の変動に関わらず、全国の中では、常に上位5位以内の就職率で推移している。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	・学校間の連携を図る進路指導主事等連絡会議の実施や、ハローワーク等との連携、キャリア教育アドバイザー等の配置など、学校の進路指導支援の充実を図っている。以上より、「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	・新型コロナウイルス感染症の影響や、国際情勢等による不透明感がみられる中で、新規高等学校卒業者の求人数を確保すること。							
今後の取組み	・関連機関との連携を一層図りながら、切れ目のない支援を実施する。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	生活環境文化部 スポーツ振興課	班・係	競技スポーツ係
TEL(直通)	076-444-3458		

KPI番号	127							
KPI名	国民体育大会等の全国大会における入賞等の件数(野球・サッカー ベスト8以上、駅伝 20位以内)							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	46	36	36	11	24	38	48	79.2
評価指標動向の説明	<p>一貫指導体制の整備(「未来のアスリート発掘事業」「とやまスポーツ道場」等の取り組み)により、全国中学校体育大会での上位入賞件数は若干減少したが、全国高校総体での上位入賞種目数が増加した。令和4年度は各種大会がほぼ通常通り開催されたが、コロナ禍前とほぼ変化はなく、強化活動が停滞していた割には、健闘したといえる。しかし国民体育大会における上位入賞者数は減少したものの、天皇杯(総合順位)は目標の20位台まで回復した。</p>							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	<p>一貫指導体制の充実を図り、選手発掘からの育成・強化を進めてきたことで、個々の能力向上については強化施策の成果が表れてきている。しかし、県の人口規模を考慮すると、全国大会での上位入賞件数増加のためには今後も種目等に特化した更なる育成・強化が必要であることから、要努力とした。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>競技人口の減少に対する普及振興・強化活動の見直しや、指導者育成制度、強化事業の拡充やブラッシュアップ等、合宿遠征等の強化事業だけでなく、新たな視野に立った新しい競技力向上事業(例:新マルチサポート事業、ジュニアアスリート育成事業など)を実施していく必要がある。</p>							
今後の取組み	<p>競技人口を維持しながら、競技団体が主体となったジュニアからトップアスリートまでの育成プログラムの充実や、県内拠点施設の活用等の強化活動を実施することで、更なる競技力アップを目指す。 また、競技団体の要望調査や、県スポーツ協会との連携強化も一層深めていく必要がある。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	生活環境文化部県民生活課	班・係	県民協働係
TEL(直通)	076-444-9012		

KPI番号	128							
KPI名	ボランティア活動者(地域で継続的に活動している人口10万人当たりのボランティア数)							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	6,861人	7,173人	6,425人	6,258人	5,695人	R5(2023) ・10月公表予定	7000人程度を維持する	-
評価指標動向の説明	近年は人口減少や新型コロナウイルス感染拡大に伴う活動制限に伴いボランティア活動者数が減少傾向にある。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	・今後、さらなる人口減が見込まれる中、ボランティア数の着実な増加を図るために児童・生徒や学生、中高年世代、勤労者などの幅広い県民にボランティア活動への参加を促進する必要があることから、「要努力」と判断した。							
目標達成に向けた課題	・人口減が見込まれるため、幅広い世代に対してボランティア活動への参加を促す必要がある。							
今後の取組み	・引き続き、令和5年度当初予算に盛り込んだ事業を着実に推進し、関係団体と連携しながら県民のボランティア活動への更なる参加促進を図る。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	生活環境文化部県民生活課	班・係	県民協働係
TEL(直通)	076-444-9012		

KPI番号	129							
KPI名	NPO法人認証数(累計)							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	376法人	378法人	377法人	378法人	384法人	392法人	410法人	95.6%
評価指標動向の説明	・令和4年度は新たに14法人認証し、6法人が解散したため、8法人の増加となった。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	・役員の高齢化等により解散する法人や、法人格の多様化によりNPO以外の非営利法人を選択するケースが増加していることにより、認証法人数が横ばいとなっていることから、「要努力」と判断した。							
目標達成に向けた課題	・NPO法人制度に関する認知度が低いことから、さらなる周知を図る必要がある。							
今後の取組み	・引き続き設立相談会の開催等を通じて、NPO法人制度の普及啓発や法人への支援を充実させていく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	経営管理部学術振興課	班・係	高等教育振興係
TEL(直通)	076-444-9652		

KPI番号	130							
KPI名	リカレント教育(学び直し)に取り組む県内社会人の割合							
進捗状況	H29	H30	(基準) R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
			40.8%	42.6%	45.8%	40.7%	43.3%	94.0
評価指標動向の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度県政世論調査の結果、リカレント教育(学び直し)に取り組む県内社会人の割合は、前年度に比べて5.1%減少した。 ・また、取組み方法で比較すると、「関係する本、雑誌、インターネット等で情報収集や学習」、「講習会、研修会等に参加し、情報収集や学習」(27.2%)、「大学、専門学校、職業訓練機関等で学習」(17.6%)の順に割合が高かった。 							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<ul style="list-style-type: none"> ・リカレント教育(学び直し)に取り組む県内社会人の割合が前年度から減少したものの、依然40%台を維持している。 ・オンライン講座が普及し、社会人が学びやすい環境が広がりつつあるなか、引き続き学びの場の情報提供を続けることで、リカレント教育に取り組む県内社会人の割合は増加すると見込まれることから、目標は「達成可能」と判断した。 							
目標達成に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・リカレント教育に取り組みたいという意思はあるが、県内にどういった学びの場があるか分からないため取り組めていない人が減るよう、情報提供の強化を図る必要がある。 							
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・各機関と連携を図りながら、大学コンソーシアム富山HPでの情報提供や、県立大学社会人向けセミナー開催の支援等を行い、リカレント教育に取り組む県内社会人の割合増を目指す。 							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	教育委員会 生涯学習・文化財室	班・係	振興班
TEL(直通)	076-444-3434		

KPI番号	131							
KPI名	県民カレッジ受講者数							
進捗状況	H29	H30	(基準) R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	13,079人	12,059人	11,277人	5,386人	10,006人	10,780人	12,000人	89.8%
評価指標動向の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた多様な学習機会や学習情報の提供、学習相談や発表・交流の場の提供など、生涯学習環境整備の施策効果を測るもの。 ・令和2年度は新型コロナウイルスの影響により受講者が一旦半減したものの、その後は回復傾向にある。 							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで受講者の主流を占めていた高齢者に加えて、講座のオンライン配信や子供の受講料無料化などにより、新たな受講者層の開拓も徐々に進んでいることから、「達成可能」とした。 							
目標達成に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社会人向け、子供向けなど、ターゲットを絞った講座内容を工夫する必要がある。 							
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日時、受講方法、講座内容を総合的に考慮し、受講対象を明確にした講座の開設を目指す。 							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	教育委員会 生涯学習・文化財室	班・係	家庭成人教育班
TEL(直通)	076-444-3435		

KPI番号	132							
KPI名	公民館における地域課題の解決に向けた学びや自然体験・ふるさと学習への参加人数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	-	-	9,489人	4,374人	5,680人	8,121人	8,400人	96.7%
評価指標動向の説明	<p>・令和元年度からの新規事業であるが、令和元年度は参加者数の目標を達成している。令和2年度と3年度はコロナの影響により、参加者数が減少している。令和4年度は、公民館活動を工夫して開催した結果、目標値に近づいてきている。</p>							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・令和2年度と3年度はコロナの影響により、事業を中止したり、規模を縮小したりする公民館が多くあり、全体の参加者数が減少している。令和4年度は、学びを止めない工夫をして活動を行ったので、元に戻りつつある状況であることから、目標は「達成可能」と判断した。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・公民館を拠点に、地域課題の解決に向けた「学び」のモデル的な活動や子どもたちのふるさとの学びや身近な自然体験活動を、引き続き推進していく必要がある。</p>							
今後の取組み	<p>・デジタル活用の工夫により、公民館における地域課題の解決に向けた「学び」の活動や子どもたちのふるさとの学びや身近な自然体験活動の実践の情報発信や多様な参加の工夫を行うことで、さらなる参加人数の増加を目指す。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	生活環境文化部 文化振興課	班・係	振興係
TEL(直通)	2629		

KPI番号	133							
KPI名	県立美術館・高志の国文学館等の年間来館者数							
進捗状況	(基準) H29	H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	1,554,012人	1,172,825人	918,792人	400,514人	559,457人	759,257人	1,000,000人	75.9%
評価指標動向の説明	<p>・県立美術館等(富山県美術館、水墨美術館、立山博物館、高志の国文学館)の来館者数は、平成29年の富山県美術館の開館により、来館者数は大幅に増加したが、新型コロナウイルスの影響により令和2年度から令和4年度の来館者数は大幅に減少した。</p>							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<p>新型コロナウイルスの影響により令和4年度は例年に比べ来館者数は減少したものの、昨年度より感染状況が落ち着きつつあり、更なる魅力的な企画展やイベントの開催により達成は可能と判断している。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>各美術館等において、それぞれ話題性のある企画展等を開催し誘客に努めているが、今後更に、関係機関と連携した、観光の視点も取り入れた誘客促進や、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた展示方法等を検討し、来館者数の確保に努めていく。</p>							
今後の取組み	<p>引き続き、美術館・博物館において、魅力的な企画展やワークショップ等を開催するなど、次世代を担う子どもたちの文化に親しむ機会の充実に努める。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	生活環境文化部 文化振興課	班・係	芸術文化係
TEL(直通)	076-444-9616		

KPI番号	134							
KPI名	富山県内で行われる芸術文化活動の創造に参加する外国人アーティストの人数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	約460人	約460人	約530人	0人	20人	約320人	約600人	53.3%
評価指標動向の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、数多くの外国人アーティストが芸術文化活動の創造のため、富山県利賀芸術公園を訪れている。近年では、中国、韓国などのほか、東南アジア諸国からの参加者も多くなってきている。 ・新型コロナウイルスの影響により、事業の中止、または事業自体は実施したものの海外からの参加が不可能となったものもあり、外国人アーティスト数は大幅に減少した。 ・令和4年度においても新型コロナウイルスの影響はあったが、「第4回とやま世界こども舞台芸術祭(PAT2022)」には海外からの参加者も多く、実績は約320人となった。 							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県利賀芸術公園での舞台芸術の創造活動や人材育成事業や、「とやま世界こども舞台芸術祭」、「世界ポスタートリエナーレトヤマ」などに多くの外国人アーティストが参加している。 ・令和2、3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大による影響により、実績は前年度を大きく下回ったが、令和4年度開催の「とやま世界こども舞台芸術祭2022」には海外からも多くの方が参加した。また、令和5年5月には、新型コロナの位置づけが5類に移行し、今後、県内芸術文化団体による国際交流事業が積極的に展開されることが期待できるため。 							
目標達成に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の推進に向けて、さらに、世界に誇れるブランド形成のため外国との共同制作による作品の創造や子どもたちの国内外との交流の充実等に取り組む必要がある。 							
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界ポスタートリエナーレトヤマ」など、特色ある国際文化イベントの開催により、世界中から芸術文化人が集う芸術文化拠点の形成に努める。 ・利賀芸術公園において次世代の人材育成、教育事業を推進する。 							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	生活環境文化部 自然保護課	班・係	自然環境係
TEL(直通)	076-444-3396		

KPI番号	135							
KPI名	ライチョウ生息数(立山地域)							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	-	-	-	-	324羽	-	295羽	109.8%
評価指標動向の説明	・ハイマツ地帯への人の立入り規制、植生復元、環境浄化など生息環境の向上に努めた結果、R3年度調査による生息数は前回(H28)の295羽よりも多い324羽が確認された。(生息数調査は5年ごとに実施)							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	・ハイマツ地帯への人の立入り規制、植生復元、環境浄化など生息環境の向上及び保護思想の普及・啓発に引き続き努めることで、現状維持できると考えられることから達成可能と判断した。							
目標達成に向けた課題	特に人的影響の高い立山においては、ライチョウへの保護活動は登山者のみならず旅行者に対しても継続的な保護活動及び普及啓発が必要である。							
今後の取組み	引き続きボランティアによる「ライチョウサポート隊」を結成し、観察マナー等の普及啓発をより充実させるほか、上野動物園と連携し、全国に県のライチョウ保護対策事業について発信する。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	生活環境文化部 自然保護課	班・係	自然環境係
TEL(直通)	076-444-3396		

KPI番号	136							
KPI名	外来植物除去活動参加者数(立山黒部アルペンルート沿線)							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	529人	666人	563人	292人	488人	483人	850人	56.8%
評価指標動向の説明	山岳地での活動であり、参加者数は天候に左右されるため、バラツキが生じる。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	コロナ収束後においては屋外活動が活発に行われることが想定されることから、達成可能と判断した。							
目標達成に向けた課題	活動認知度の向上と、受け皿となる指導者の資質向上							
今後の取組み	多くの人々が、立山での外来植物除去活動に関心を示してもらえるよう、SNSを利用した広報活動を推進する。また、指導者研修により育成した指導員を活用し、外来植物除去の活動回数を増やすことにより、参加者数の増加を図る。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	生活環境文化部 自然保護課	班・係	自然環境係
TEL(直通)	076-444-3396		

KPI番号	137							
KPI名	自然解説員(ナチュラリスト)認定者数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	841人	841人	841人	892人	892人	892人	950人	93.9%
評価指標動向の説明	・ナチュラリストは、3年に1回(近年:H29、R2、R5)養成しており、認定者は増加している。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	・ナチュラリストについては、概ね、募集を上回る応募があるため、達成可能と判断した。							
目標達成に向けた課題	・ナチュラリスト制度について、各種媒体を活用し、さらなる周知を図る必要がある。							
今後の取組み	・HPや広報誌、SNS等により、制度の周知を図り、ナチュラリストの着実な養成を目指す。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	生活環境文化部 自然保護課	班・係	自然環境係
TEL(直通)	076-444-3396		

KPI番号	138							
KPI名	狩猟免許所持者数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	1,296人	1,304人	1,365人	1,406人	1,402人	1,420人	1,550人	91.6%
評価指標動向の説明	・近年、狩猟免許を更新しない人数以上に狩猟免許試験受験者数が増加している。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	・担い手の確保・育成対策により免許所持者数が増加しており達成可能と判断した。							
目標達成に向けた課題	・若手の担い手、特に銃猟免許所持者の高齢化が顕著であり、狩猟について若い人達に興味を持ってもらう等、普及啓発が必要である。							
今後の取組み	県猟友会が実施している「狩猟ガイダンス」や狩猟免許試験の受験者養成にあたる「初心者講習」に県から補助するとともに、狩猟免許試験を年3回開催し受験機会を増やすことにより狩猟免許資格者の確保を図る。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	生活環境文化部環境保全課	班・係	指導係
TEL(直通)	076-444-3144		

KPI番号	139							
KPI名	大気及び水質に係る環境基準の達成率							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	大気100% 水質100%	大気100% 水質100%	大気100% 水質100%	大気100% 水質100%	大気100% 水質100%	大気100% 水質100%	大気100% 水質100%	100%
評価指標動向の説明	<p>全ての大気環境観測局・水質調査地点で環境基準を達成、維持している。</p> <p>[大気] 二酸化硫黄、二酸化窒素</p> <p>[水質] BOD(生物化学的酸素要求量):河川、COD(化学的酸素要求量):湖沼・海域</p>							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<p>[大気] H28年度から全ての観測局で継続して環境基準を達成しており、引き続き工場等からの大気汚染物質の排出抑制を推進することにより、達成可能と判断した。</p> <p>[水質] 海域の一部の地点では、過去に自然的要因(気象・海象)の影響を受けて達成しない年があったものの、近年はH24年度から継続して全ての地点で環境基準を達成しており、引き続き工場等からの汚濁負荷量の排出抑制を推進することにより、達成可能と判断した。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>今後も安全で安心な生活環境を保全していくため、大気については、アスベスト(石綿)の飛散防止対策や一時的に高濃度になることがある光化学オキシダントへの対応など、水質については、河川や名水などの良好な水環境の保全や水環境保全活動の活性化などを推進する必要がある。</p>							
今後の取組み	<p>大気環境計画、水質環境計画に掲げる施策を推進し、環境監視や発生源対策、県民等による自主的な環境保全活動の促進などに取り組む。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	生活環境文化部環境保全課	班・係	指導係
TEL(直通)	076-444-3144		

KPI番号	140							
KPI名	環境保全活動への取組み者数(川や海の環境観察会等への参加者数)							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	-	3,677人	4,156人	1,417人	2,076人	2,946人	5,000人	58.9%
評価指標動向の説明	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による活動の機会の減少により、一時的に取組み者数の減少が見られたが、感染防止に努めながら、地域における環境保全活動の機会の創出等に取り組み、活動の拡大を図った。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、実績は基準年を下回ったが、令和4年度は活動者数が増加に転じた。 5年5月に感染症の位置づけが5類に移行し、今後、環境保全活動が積極的に展開されることが期待できるため、達成可能と判断している。							
目標達成に向けた課題	水環境保全活動に取り組む団体の主要なメンバーについて、高齢化や後継者不足などの課題を抱えていることから、新たに活動に取り組む人材を養成する必要がある。							
今後の取組み	新たな人材を養成するため、若者を対象とした「水環境保全活動活動体験会」や、子供たちを対象とした「森・川・海の環境観察会」、地下水の利用や保全に取り組む人々を対象とした「地下水の守り人養成講座」を開催する。また、ウェブサイトや名水巡りツアー等により「とやまの名水」の魅力と保全の必要性を発信する。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	生活環境文化部環境政策課	班・係	企画係
TEL(直通)	076-444-3141		

KPI番号	141							
KPI名	環境美化活動参加者数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	11万人	13万人	13万人	1.7万人	2.4万人	11万人	13万人以上	84.6%
評価指標動向の説明	<p>・R2、3は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で多くの清掃イベントが中止・縮小等になったが、R4は、感染症拡大に留意しつつ、清掃イベントが再開されはじめたため、清掃イベントへの参加人数はコロナ前の水準に戻りつつある。</p>							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・コロナ前のH30、R1は目標を達成しており、今後、コロナ前と同じく、県内全域での清掃活動の展開、スマホアプリを活用した自主的なごみ拾い活動の促進などにより、参加人数の拡大を図ることから、達成可能と判断した。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・清掃活動への参加を一層促進するため、改めて幅広い県民に清掃活動への協力を呼びかけ、参加者をコロナ前の水準に回復させる必要がある。</p>							
今後の取組み	<p>・県内企業・団体等が参加するとやま海ごみボランティア部(R4.7設立)を中心として、清掃活動のより一層の促進を図り、参加者数の増加を目指す。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	生活環境文化部環境保全課	班・係	指導係
TEL(直通)	076-444-3144		

KPI番号	142							
KPI名	地下水揚水量の適正確保率							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
評価指標動向の説明	・地下水揚水量は、富山県地下水の採取に関する条例対象地域における地下水区ごとの適正揚水量の範囲内を維持している。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	・地下水揚水量は気象等の影響により変動があるものの適正揚水量の範囲内を維持しており、地下水の保全・適正利用の推進に引き続き取り組むことで達成可能であると判断した。							
目標達成に向けた課題	・R3年1、2月の大雪では、消雪設備の一斉稼働により大幅に地下水位が低下し、地下水位低下注意報を富山市に発令するなどしており、今後も降雪時には、市街地等では地下水位の大幅な低下が懸念されることから、地下水障害の未然防止のため、引き続き冬期間の地下水位低下対策を推進していく必要がある。							
今後の取組み	・降雪時の大幅な地下水位低下による地下水障害の未然防止のため、引き続き冬期間の地下水位低下対策や地下水の守り人と連携した消雪設備の適正な維持管理を推進する。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	土木部 建築住宅課	班・係	建築指導係
TEL(直通)	076-444-3356		

KPI番号	143							
KPI名	住宅の耐震化率							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B×100
	79%	80%	81%	83%	85%	86%	89%	96.9%
評価指標 動向の説明	<p>徐々に実績は上がってきているが、全国の値(H30:87%)は下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実績値:H25 約72.3%、H30 約80.4%、目標値:R7 約90% ・それ以外の年度は全てこれらからの線形補間を掛けた値 H28 77.21%→77%、H29 78.84%→79%、R1 81.77%→81%、R2 83.14%→83%、 R3 84.51%→85%、R4 85.88%→86%、R6 88.62%→89% ・達成率は85.88/88.62=95.36→96.9% 							
目標達成 の見通し	達成可能							
目標達成 の見通しの 判断理由	<p>令和3年3月19日に閣議決定された住生活基本計画等によれば、全国の耐震化率は87%であり、現在の当県の状態は十分とは言えない。</p> <p>県耐震診断及び耐震改修支援事業の実績も増加傾向にあることを考えれば、近県での地震発生やこれまでの普及啓発により少しずつ耐震化に関する住民意識は高まってきており、目標は達成可能となってきたように考える。</p> <p>しかし、コスト高騰の影響で、耐震化率の向上に影響する建替え・耐震等の工事が鈍化することが懸念される。</p> <p>今後とも事業推進に向けて一層の努力が必要である。</p>							
目標達成に 向けた課題	さらなる普及啓発の強化を図る必要がある。							
今後の 取組み	<p>令和5年5月5日に隣県で発生した震度6強の地震を住民意識の向上を図る好機として、より一層の普及啓発の強化に努めたい。</p> <p>また、これまでも部分改修、簡易改修等の補助メニューを増やすことで一層の利用促進を図ってきたが、より効果的な補助等の手法がないか調査検討を進める必要がある。</p> <p>さらに、耐震化の趣旨を踏まえ、住宅そのものだけでなく、危険なブロック塀等の除却及び家具の固定も推進しており、地域全体の耐震化に向けて検討を進めていきたい。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	土木部 建築住宅課	班・係	住みよいまちづくり班
TEL(直通)	076-444-3359		

KPI番号	144							
KPI名	高齢者が居住する住宅のバリアフリー化率							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	47%	47%	48%	48%	49%	49%	69%	72%
評価指標動向の説明	<p>徐々に実績は上がってきており、全国の値(H30:42.4%)を上回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実績値:H25 約46%、H30 約47%、目標値:R8 75% ・それ以外の年度は全てこれからの線形補間を掛けた値 H28 46.7%→47%、H29 47.1%→47%、R1 47.9%→48%、R2 48.3%→48%、R3 48.7%→49% ・R4 49.1%→49%、R6 68.1%→69% ・達成率は$49.1/68.1=72.1\rightarrow 72\%$ 							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	平成 30 年住宅・土地統計調査によれば、高齢者が居住する住宅のバリアフリー化率は、47.5%(全国3位)となり高い水準である。また、高齢者が居住する既存住宅では「高齢者が住みよい住宅改善支援事業費補助金」の利用がR3年度で年間19件あったことから住宅のバリアフリー化の促進は順調に進んでいると思われるが、現時点では目標との乖離が大きいため、「要努力」とした。							
目標達成に向けた課題	普及啓発を継続する必要がある。							
今後の取組み	支援制度を活用してもらうため、普及啓発活動を継続する必要がある。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	生活環境文化部県民生活課	班・係	県民協働係
TEL(直通)	076-444-9012		

KPI番号	145							
KPI名	地域活動に参加している人の割合							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	55.0%	57.2%	56.7%	62.9%	58.8%	58.6%	70.0%	83.7%
評価指標動向の説明	・本県の地域活動に参加している人の割合は、近年横ばい傾向にある。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	近年地域活動に参加している人の割合は横ばい傾向にあり、目標の70.0%には一度も達していないため、要努力とした。							
目標達成に向けた課題	・ボランティアの高齢化・固定化の傾向が見られるため、学生、若者、勤労者、熟年世代などへ広く県民のボランティア活動参加を働きかけていくことが必要である。							
今後の取組み	・引き続き、令和5年度当初予算に盛り込んだ事業を着実に推進していくとともに、国、市町村、関係団体とも連携を図っていく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	農林水産部農産食品課	班・係	食品安全係
TEL(直通)	076-444-3944		

KPI番号	146							
KPI名	食品表示が適正な店舗の割合							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	97.2%	95.1%	96.7%	97.4%	98.1%	97.2%	100%	97.2%
評価指標動向の説明	食品関連事業者の食品表示に対する意識は高まっており、殆どの店舗において適正に表示が行われている。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	食品表示に対する消費者の関心や食品関連事業者の意識は高まっており、達成可能と判断した。							
目標達成に向けた課題	食品表示法に基づく適正表示や食品添加物の不使用表示など、食品表示制度について、継続的に周知していくことが必要である。							
今後の取組み	引き続き、「食品表示110番」において、食品関連事業者からの相談対応や「とやま食の安全・安心情報HP」における情報提供、各種講習会の開催や各種研修会への講師派遣などにより適正表示の指導徹底を図っていく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	農林水産部農林水産企画課	班・係	企画班
TEL(直通)	076-444-9622		

KPI番号	147							
KPI名	学校給食で年間に提供した野菜、果物等に占める県産食材の活用割合							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	21.6%	20.7%	26.0%	25.1%	24.9%	23.4%	32.0% (R8)	73.1%
評価指標動向の説明	・市町村での地場産食材活用の取組みが進んでいる一方で、気象の影響による不作や生産者の減少等により、県産食材の活用割合は、横ばいとなっている。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	・基準年と比較して、県産食材の活用の割合は増加しているが、近年減少傾向にあることから、目標達成に向け「要努力」と判断した。							
目標達成に向けた課題	・気候条件や生産者の減少等によって供給量が落ち込んだ場合でも、広域的に安定して供給できる体制が必要である。							
今後の取組み	・引き続き、青果市場によるコーディネート等により、産地と学校給食の情報共有・連携強化を図り、市町村域を越えた県産食材の利用を推進する。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	農林水産部農林水産企画課	班・係	企画班
TEL(直通)	076-444-3368		

KPI番号	148							
KPI名	カロリーやバランスを考えて食事する県民の割合							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	72%	60%	61%	57%	59%	54%	70%以上 (R8)	77.1%
評価指標動向の説明	<p>・県民の食育に対する関心は高まっており、食生活の改善を実践している県民の割合は増加しているが、令和2～4年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、農林漁業体験や調理実習等で中止や規模縮小を余儀なくされたものもあり、食育啓発活動が計画通りに実施することができなかったことなどの影響がある。</p>							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	<p>・「富山型食生活」など、栄養バランスのよい食生活を広く普及し、食生活改善の実践を推進してきた結果、9割以上の県民が食育に関心があるとしており、引き続き普及に努めることで、目標達成可能と考える。</p>							
目標達成に向けた課題	<p>・20代、30代のカロリーやバランスを考えて食事する割合が低く、共働き世帯、一人暮らし世帯、高齢者世帯など、様々なライフスタイルに対応した取り組みやすい食育を推進する必要がある。</p> <p>・食育に対する意識の低い層にも関心を持ってもらうため、デジタル技術を活用した情報発信を行うなど、現在の生活・日常に対応した食育を推進を目指す必要がある。</p>							
今後の取組み	<p>・令和4年3月に策定した「第4期食育推進計画」に基づき、農林漁業体験や調理講習会、食育講座等のライフステージに応じた食育の啓発活動を継続していくとともに、新型コロナウイルス感染症対策下での「新しい生活様式」に対応した食育の推進方法を検討・実施していく。</p>							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	農林水産部農産食品課	班・係	食品産業・流通係
TEL(直通)	076-444-3282		

KPI番号	149							
KPI名	県民1人1日当たりの食品ロス発生量							
進捗状況	(基準) H29	H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	約110g (H28)	-	-	-	-	-	2030年までの半減を目指して減少させる。 (R7)	-
評価指標動向の説明	平成28年度の県民1人1日当たりの食品ロス発生量は約110gであった。全国の国民一人当たりの食品ロス発生量は漸減している。 (県民1人1日当たりの食品ロス発生量は平成28年度から平成29年度にかけて行った食品ロス・食品廃棄物実態把握調査により推計されたもの。)							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	県政世論調査における食品ロス問題に関する認知度は、(H28)64.1%から(R4)91.2%に増加し、食品ロス削減に取り組む人の割合も(H28)62.9%から(R4)89.7%に増加していることから、目標は「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	食品ロス問題に関する認知度は各世代で異なることから、さらなる周知を図る必要がある。							
今後の取組み	期限間近商品の優先購入促進キャンペーン、使い切りと食べきりを推進する3015運動等を着実に実施することにより、認知度の向上を図り、食品ロスの削減を目指す。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	危機管理局 防災・危機管理課	班・係	危機管理係
TEL(直通)	076-444-9670		

KPI番号	150							
KPI名	自主防災組織の組織率							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	79.0%	79.6%	85.7%	86.4%	88.2%	88.4%	89.0%	99.3%
評価指標動向の説明	自主防災組織の組織率(全世帯数に占める自主防災組織に加入している世帯の割合)の近年の推移については、順調に向上し、最新のデータである令和5年4月時点で89.1%となっており、目標値を達成している。また、全国平均84.7%(R4)を上回っている。							
目標達成の見通し	既に達成							
目標達成の見通しの判断理由	令和5年4月時点で自主防災組織の組織率が目標値を上回ったため。							
目標達成に向けた課題	自主防災組織の組織率が全国平均を上回っているものの、組織率が低い状況となっている地域もあることから、引き続き、市町村と連携して組織率の向上に取り組む必要がある。							
今後の取組み	研修会などによる自主防災組織の結成促進を支援するとともに、結成済みの組織においても、地区防災計画を作成した自主防災組織の避難訓練や避難所開設・運営訓練などに要する経費への支援を行うなど、引き続き、市町村と連携してR8目標(90%)達成に向けて自主防災組織率の向上に取り組む。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	土木部・建設技術企画課	班・係	企画調整係
TEL(直通)	076-444-3104		

KPI番号	151							
KPI名	公共土木施設における長寿命化計画の見直し数 (公共土木施設における長寿命化計画の策定数)							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	2計画 (6計画)	2計画 (6計画)	4計画 (12計画)	4計画 (12計画)	4計画 (12計画)	4計画 (12計画)	12計画 (12計画)	33.3% (100%)
評価指標動向の説明	R1までに、橋梁、都市公園、下水道施設、水門等の河川管理施設、港湾施設、砂防関連施設(砂防設備、地すべり防止施設、急傾斜崩壊防止施設)、ダム(機械設備、電気通信設備、土木構造物)、海岸保全施設において、長寿命化計画を策定し、必要に応じて長寿命化計画の見直しを実施している。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	長寿命化計画は必要に応じ見直しを行っており、R6にはすべて見直しを行う見通しのため、「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	計画見直しに必要な予算の確保に努め、着実に実施していく必要がある。							
今後の取組み	各施設がその機能を十分に発揮できるよう、長寿命化計画に基づき優先度の高い施設から修繕を進めるとともに、定期的な点検を行い、必要に応じて長寿命化計画の見直しを行う。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	土木部河川課	班・係	計画係
TEL(直通)	076-444-3325		

KPI番号	152							
KPI名	河川整備延長							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	420.8km	421.5km	421.9km	422.9km	424.1km	425.2km	426km	99.8%
評価指標動向の説明	浸水被害解消のため、近年浸水被害が発生している河川において、治水上ネックとなっている箇所等へ集中投資を行っており、着実に整備が進んでいる。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	必要箇所に集中投資を行いつつ、計画的に河川改修を進めていることから、「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	過去に大きな浸水被害が発生した河川や、近年、局地的な集中豪雨等により住宅等への被害があった河川などにおいて、重点的に事業費を配分して計画的な整備を行い、治水対策を着実に進める必要がある。							
今後の取組み	過去に大きな浸水被害が発生した河川や、近年、局地的な集中豪雨等により住宅等への被害があった河川などにおいて、計画的な整備を行い、治水対策を着実に推進する。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	土木部・砂防課	班・係	砂防係
TEL(直通)	076-444-3342		

KPI番号	153							
KPI名	土砂災害危険箇所の整備箇所数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	613箇所	623箇所	627箇所	631箇所	636箇所	638箇所	660箇所	96.7%
評価指標動向の説明	年度毎の整備箇所数には幅があるものの、整備箇所数は着実に増加している。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	今後も着実に整備を実施することとしており、「達成可能」と判断した。							
目標達成に向けた課題	着実な整備を実施するために必要な予算の確保に努める必要がある。							
今後の取組み	土砂災害危険箇所の整備に必要な予算の確保に努め、着実に整備を実施する。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	警察本部警務部警務課	班・係	企画調整第二係
TEL(直通)	076-441-2211		

KPI番号	154							
KPI名	犯罪発生率(人口1万人当たりの刑法犯認知件数)							
進捗状況	H29	H30	(基準) R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	50.2件	45.9件	42.9件	43.5件	43.9件	38.3件	40.9件	-
評価指標動向の説明	刑法犯認知件数は、平成13年以降減少傾向で推移し、令和2年及び令和3年は前年比微増であったが、ピーク時(平成13年・17,660件)から約4分の1以下(3,929件)にまで減少している。							
目標達成の見通し	既に達成							
目標達成の見通しの判断理由	犯罪抑止対策の強化等により、刑法犯認知件数は減少傾向で推移している。							
目標達成に向けた課題	自転車窃盗、住宅対象侵入窃盗等における無施錠被害が高水準で推移していることに加え、特殊詐欺、ストーカー・DV、児童虐待、サイバー犯罪等、警察事象への対応が複雑化している。							
今後の取組み	目標は達成しているものの、特殊詐欺被害認知件数や被害額が増加していることから、被害に遭わないための広報啓発活動の推進や、防犯カメラの設置促進、関係機関との連携に努める。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	警察本部警務部警務課	班・係	企画調整第二係
TEL(直通)	076-441-2211		

KPI番号	155							
KPI名	交通人身事故の発生件数(死者数)							
進捗状況	H29	H30	(基準) R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	3,238件 (37人)	2,839件 (54人)	2,353件 (34人)	1,992件 (26人)	1,971件 (29人)	1,953件 (34人)	平成以降 最小水準 の定着を 目指す	-
評価指標動 向の説明	死者数は昨年より増加したが、高齢者を重点とした総合的な交通事故防止対策を推進した結果、交通事故発生件数及び負傷者数は、22年連続で減少した。							
目標達成の 見通し	達成可能							
目標達成の 見通しの 判断理由	交通人身事故の発生件数(死者数)の更なる減少を目指して、交通安全教育の充実、交通環境の整備及び交通事故防止に資する交通指導取締り等の推進を図った結果、交通人身事故発生件数が22年連続で減少し、死者数も30人台に抑えていることから達成可能と判断した。							
目標達成に 向けた課題	死者数に占める高齢者の割合が約6割と、依然として高い水準で推移していることから、引き続き、高齢者を重点とした総合的な対策を推進することが重要である。							
今後の 取組み	死者数に占める高齢者の割合が高いことから、関係機関・団体と連携を図り、高齢者を重点とした総合的な交通事故防止対策を推進していく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	地方創生局ワンチームとやま推進室	班・係	中山間地域対策課中山間地域対策担当
TEL(直通)	076-444-9607		

KPI番号	156							
KPI名	中山間地域における地域運営組織数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4(A)	(目標) R6(B)	A/B×100
	12組織	15組織	48組織	57組織	61組織	67組織	60組織	111.7%
評価指標動向の説明	令和元年度は、南砺市が小規模多機能自治の取組みを推進し、南砺市のみで28組織が形成され、地域運営組織数が大きく増加した。令和4年度は、高岡市等で計6地域が形成され、目標値を達成した。							
目標達成の見通し	既に達成							
目標達成の見通しの判断理由	令和2年度までに、魚津市や南砺市ではほとんどの旧小学校区で地域運営組織が形成されている。近年、高岡市や氷見市、富山市でも着実に地域運営組織の形成が進んでおり、令和3年度に目標を達成した。							
目標達成に向けた課題	南砺市のように小規模多機能自治の取組みを推進し、地域運営組織の形成が進んでいる市がある一方で、地域運営組織の無い、あるいは少ない市町村がある。							
今後の取組み	中山間地域「話し合い」促進事業で、地域のアクションプランの作成等の支援を行い、市町村と連携して地域運営組織の形成を促していく。							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	農林水産部・農村振興課	班・係	都市農村交流係
TEL(直通)	076-444-3380(3963)		

KPI番号	157							
KPI名	農林漁業等体験者数(延べ人数)							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	67,003人	68,199人	70,005人	20,850人	30,816人	R5年内 公表見込	74,200人	—
評価指標動向の説明	新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて都市と農村の交流人口は大幅に落ち込んでいるものの、開放的で密を避けられる農山漁村地域への関心の高まりを背景に、アフターコロナは交流・関係人口の増加が見込まれる。							
目標達成の見通し	達成可能							
目標達成の見通しの判断理由	コロナ禍を契機とした農山漁村地域への関心の高まりを受けて、今後農泊の推進をはじめ、都市農村交流の活発化を図り、農林漁業等体験者の増加に、より一層取り組むことから、継続的な増加が見込まれる。							
目標達成に向けた課題	コロナ禍を契機として、テレワークやワーケーションなどの多様な働き方が浸透していることをうけ、農山漁村地域における都市部の若者の受入や地域づくりの担い手確保、移住・定住促進の取組みを支援する必要がある。							
今後の取組み	<p>既存の帰農塾や農村サポーターなどの都市農村交流事業の継続的な実施に加え、都市住民のライフスタイルの多様化に即した新たな交流スタイルの確立や交流推進対策を講じ、再び交流人口の拡大を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を契機に需要の増加が見込まれる農泊について、「富山県農泊推進ネットワーク会議」を通じて、全県的な推進を図る。 ・中山間地域において、農繁期に農作業・農村滞在希望者が短期的に滞在する「とやまノーム(農務)ステイ事業」を実施し、労働力不足の解消と関係人口創出を図る。 							

「第2期とやま未来創生戦略」 KPI進捗状況評価票

部局・室課	厚生部・厚生企画課	班・係	地域共生福祉係
TEL(直通)	076-444-3197		

KPI番号	158							
KPI名	中山間地域におけるケアネット活動の取組地区数							
進捗状況	H29	(基準) H30	R1	R2	R3	R4 (A)	(目標) R6 (B)	A/B × 100
	118	118	117	117	117	118	132	89.4%
評価指標動向の説明	8割を超える地区で取組みが実施されているが、近年は伸び悩んでいる。							
目標達成の見通し	要努力							
目標達成の見通しの判断理由	県の補助制度の拡充により、中核市での取組みが進んできたが、近年の取組み地区数は横ばいとなっており、県社協を通じて市町村社協、地区社協へとケアネット活動の普及についてより一層働きかける必要がある。							
目標達成に向けた課題	市町村社協や地区社協によってケアネット活動に対する理解や取組みに差があることから、市町村社協担当職員研修会の開催やアドバイザーの派遣などにより職員の資質向上やノウハウの蓄積を図っていく必要がある。							
今後の取組み	引き続き、地域運営組織の活動支援等として、助成金による支援を継続するとともに、全ての地区においてケアネット活動が実施されるために働きかける。							